

再評価審議資料【農業農村整備事業（県事業）】（農地整備課）

- 再評価対象箇所一覧表 . . . p 1
- 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について . . . p 3
- 再評価実施箇所（附図） . . . p 5
- 説明資料（パワーポイント）
  - 1 県営広域農道整備事業  
「郡上南部地区」 . . . p 7 ~ 1 5



令和3年度 再評価対象箇所一覧表 8月27日審議箇所  
 [農政部農地整備課]

番号	事業名	路線・地区・河川名等	実施箇所 (市町村名)	採択 年度	完了 予定 年度	事業概要		全体事業費 (百万円)		実施済み額 (百万円)		進捗率 (%)		経過年数 (R4.3現在)	政策との 位置付け	関連事業の進 捗状況	社会経済情勢 等の変化及び 地元の意向	環境との調 和への配慮 事項	事業費縮減	費用対効 果分析	対応方針 (案)	特記事項
						全体事業量	事業 実施量	用地補償費	工事費等	用地補償費	工事費等	用地補償費	工事費等									
1	県広域農道 整備事業	郡上南部 郡上南部	郡上市	H6	R14	L=29,509m	L=22,317m	23,838	75.6%	19,176	80.4%	80.4%	28	『さるる農業・農 村基本計画』に 位置づけられ た「地域資源を 活かした 農村づくり」	(関連施設) 野採集出荷施 設3施設 整備 済	郡上市 受益 農家とも、早期 完了を強く要望 している。	根拠委利用 した法面緑 化	工事の計画・ 設計の見直 し	投資効果 (1.10) 1.13	継続	前回 再評価 H28	

費用対効果分析:( )は前回再評価時の投資効果率



令和3年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 農地整備課

○事業制度について	事業名	県営広域農道整備事業（道整備交付金）
	事業目的	・ 広域営農団地整備計画を樹立している地域を対象に、農産物の流通の合理化、農作業の効率化等を目的として、大規模な農道の新設並びに改良を行う。
	採択基準	・ 受益面積がおおむね1,000ha（振興山村、過疎地域は300ha）以上であること ・ 総事業費が20億円以上であること ・ 車道幅員がおおむね5m（振興山村は4m）以上であること ・ 自動車交通量のうち、農業に係るものが過半を占めるものであること
	概要（メニュー）	・ 農道の新設又は改良
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫
		その他項目
	費用 ≪C≫ の算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食料の安定供給の確保に関する効果</li> <li>① 走行経費節減効果・・農産物の生産・流通に係る輸送経費の節減効果</li> <li>② 維持管理費節減効果・・農道の管理労力等維持管理費の増減</li> <li>・ 農村の振興に関する効果</li> <li>③ 一般交通等経費節減効果・・農道の開設、改良による移動距離の短縮や舗装等による走行経費（燃料、タイヤ等消耗品）の節減効果</li> <li>・ その他効果</li> <li>④ 木材生産効果等・・木材の伐採・搬出が可能となることで得られる生産効果等</li> <li>⑤ 年総効果額 = ①+②+③+④</li> <li>⑥ 評価期間：当該事業工事期間+40年</li> <li>⑦ 割引率：4%</li> <li>⑧ 総便益 = <math>\sum (⑤ \div (1+⑦)^{⑥})</math></li> </ul>
費用便益費の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通勤、通学、買い物等の通行条件の改善による住環境の向上</li> <li>・ 動植物に配慮した整備による生態系の保全等</li> </ul> <p>⑨ 総費用 = ⑩+⑪ ⑩ 当該事業による費用 ⑪ その他費用（関連事業費+資産価額+再整備費）</p> <p>費用便益比（B/C）<math>\geq 1.0</math></p> <p>総費用総便益比 = 総便益（⑧）<math>\div</math> 総費用（⑨）</p>	

※ H20以降に計画策定（新規、変更）した地区については、「新たな効果算定マニュアル」により総費用総便益比（評価期間（当該事業期間+40年）の間で必要な投下費用（総費用）とそれによって発現する総便益を対比）にて算定。



# 令和3年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔農地整備課〕

番 号	1	事 業 名	県営広域農道整備事業 郡上南部地区	
事業実施箇所	郡上市（旧八幡町、大和町、白鳥町）		事業主体	岐阜県
採択年度	平成6年度	完了予定年度	令和14年度	
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年が経過した時点で継続中の事業			
事業目的	<p>本事業は、水稻のほか高冷地野菜や畜産などの各種生産団地と、集出荷施設や保冷库などの農業近代化施設、更には市場を機能的に結び、広域的かつ合理的な農業生産流通体制を確立するとともに、郡上市を広域的に結ぶ生活環境基盤を形成するため、基幹となる農道の整備を行うものである。</p>			
事業概要	<p>総延長 L=36,619m（農道施工：29,509m、県道又は市道施工：7,110m）                  道路幅員 W=7.0m（一部区間：W=5.0m）                  道路工 L=28,986m 橋梁工 N=11橋（523m）</p>			
概要図				





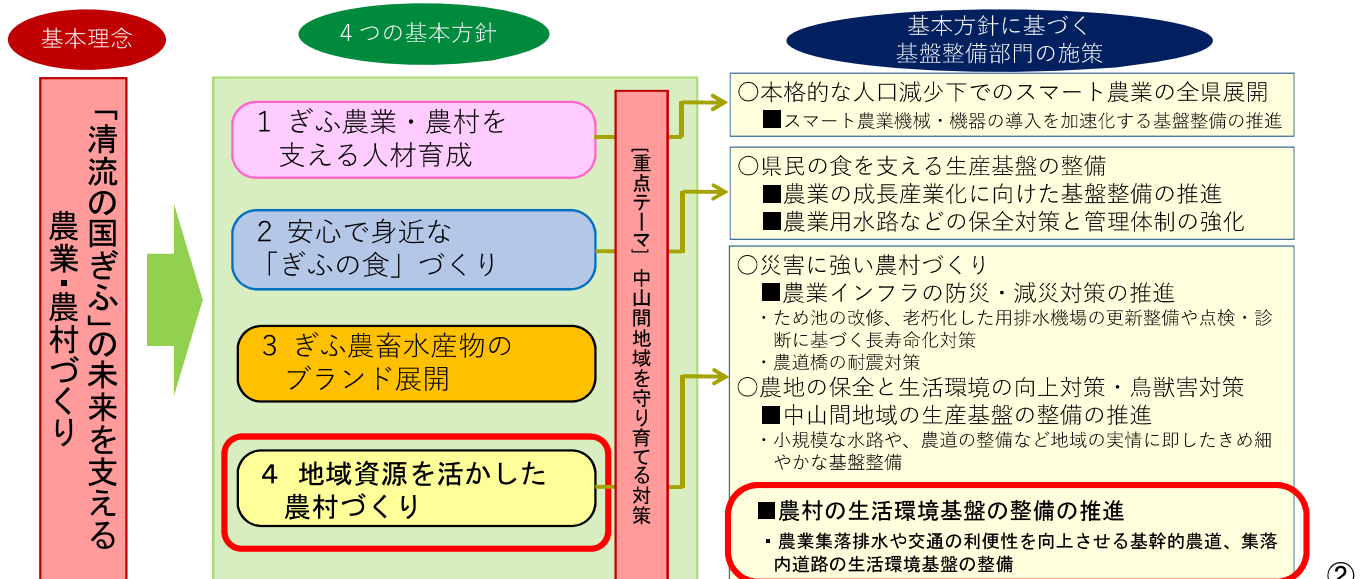
# 再評価 県営広域農道整備事業 郡上南部地区

農政部 農地整備課

①

## 農道整備事業 郡上南部地区における政策との位置付け

新たな「ぎふ農業・農村基本計画（R3～R7）」の基本方針【地域資源を活かした農村づくり】において、〈農村の生活環境基盤の整備の推進〉を達成するための重要な事業



# 位置図

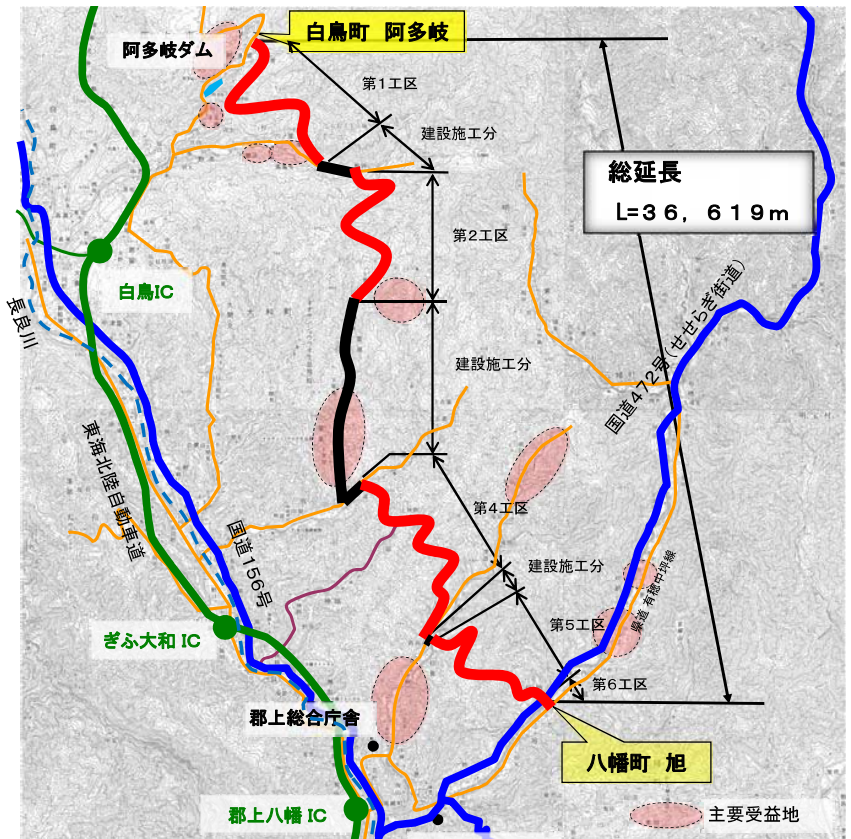
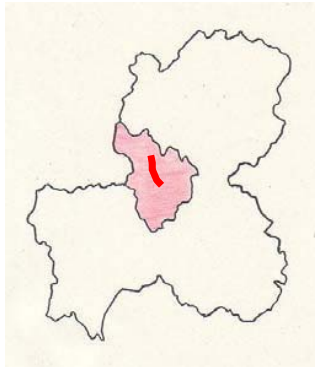
広域農道 郡上南部地区  
 総延長 L=36,619m

## 農道施工

L=29,509m  
 (施工済 22,317m、残工事 7,192m)

## 県道又は市道施工(建設施工)

L=7,110m

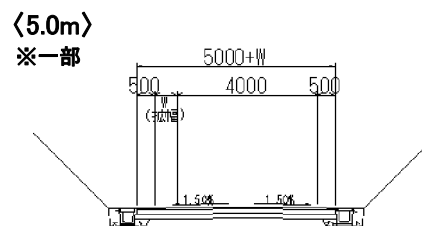
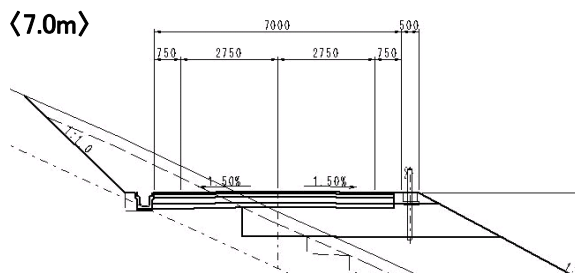


③

# 事業概要

・ 総事業費	23,838百万円
・ 受益面積	3,060 ha
・ 市町村名	郡上市
・ 事業量	L=29,509m
・ 幅員	7.0m(車道5.50m 路肩0.75m×2)
・ ※一部	5.0m(車道4.00m 路肩0.50m×2)
・ 工期	平成6年度～令和14年度
<令和2年度までの進捗率> 事業量ベース:75.6% (事業費ベース:80.4%)	

## 標準断面図

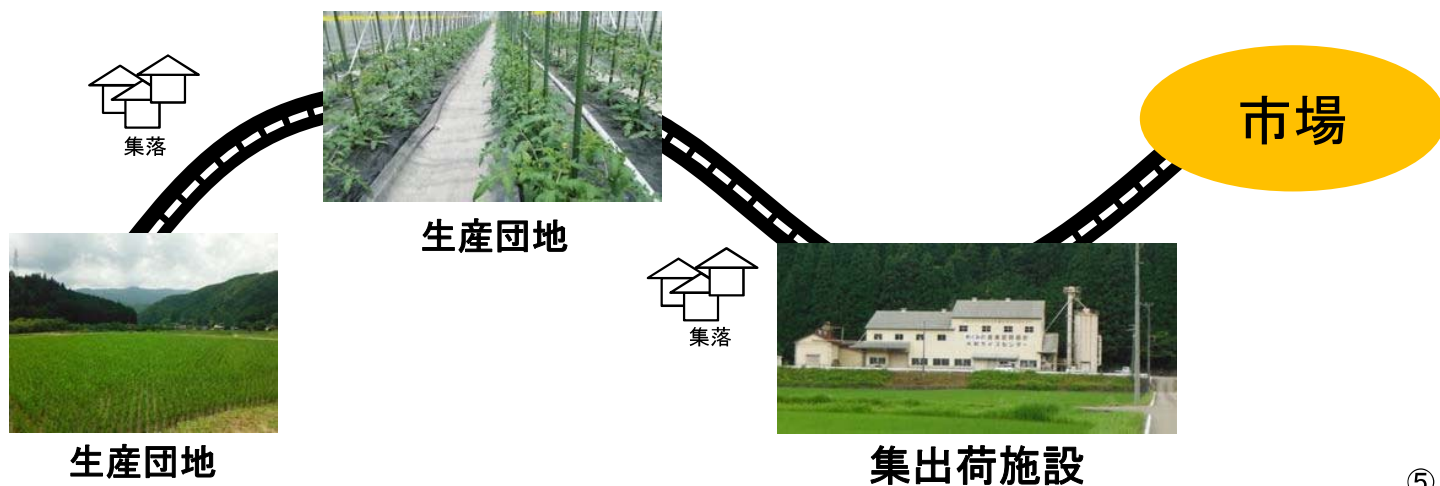


④



## 事業の目的

- 広域的・合理的な農業生産流通体系の確立
- 郡上市内を広域的に結ぶ生活環境基盤の形成



⑤

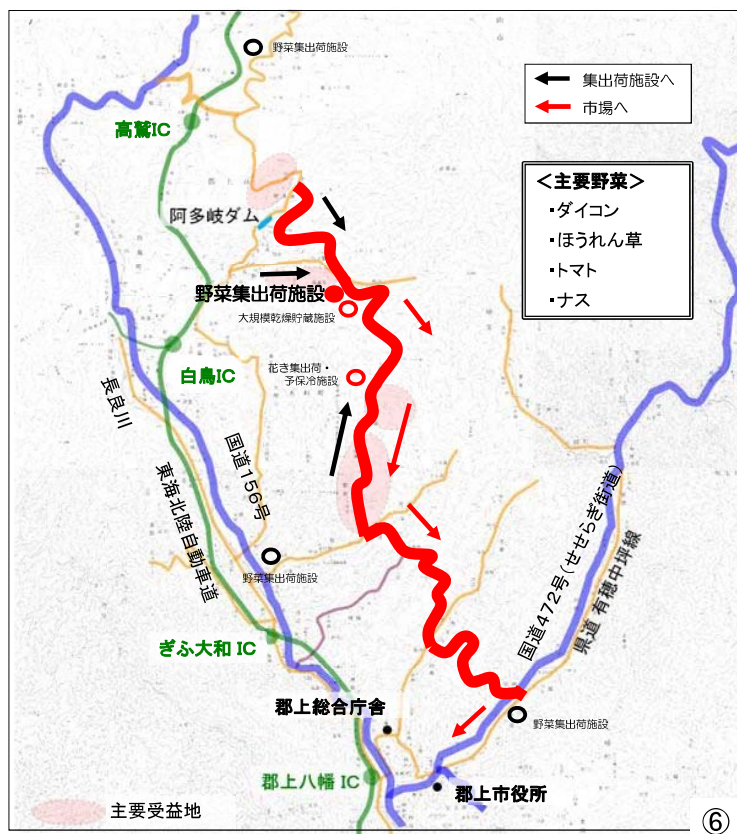
## 事業効果①

生産地と施設を効率的に結び、農業車両の走行経費の節減が図られる

- 野菜集出荷施設への運搬



野菜集出荷施設



⑥

## 事業効果②

生産地と施設を効率的に結び、農業車両の走行経費の節減が図られる

### ● 広域堆肥施設への運搬



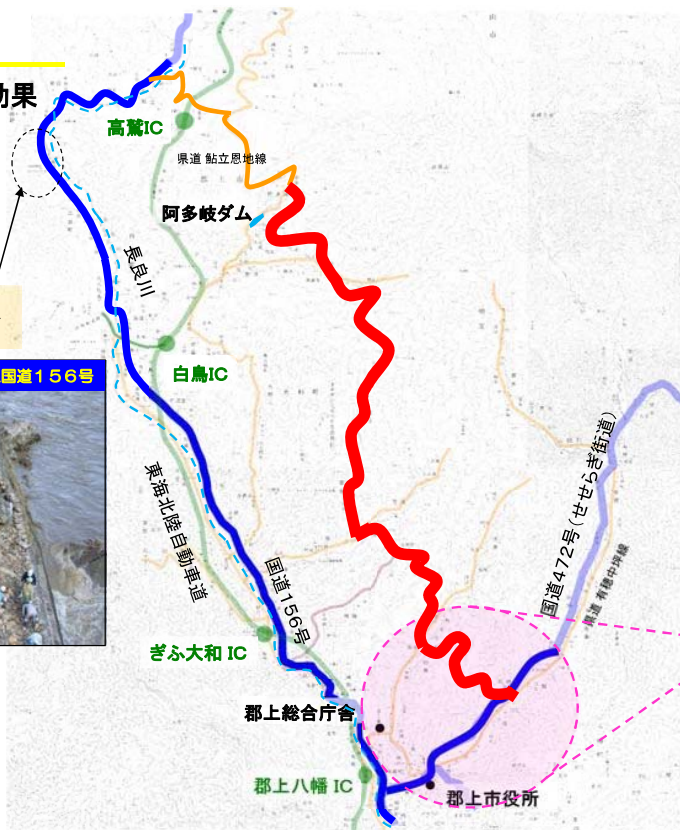
広域堆肥施設



## 事業効果③

一般交通等への効果

### <災害時の迂回路>



### <集落間移動の効率化>





# 費用対効果分析

## 1) 事業の効果

営農に係る走行経費節減効果      効果全体の75%

一般交通等経費節減効果            効果全体の24%

その他の効果                            効果全体の 1%

## 2) 投資的効果率

効果額／事業費 = 1.1

前回再評価時(H28)

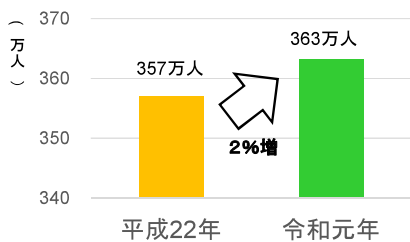
1.1

⑨

# 社会経済情勢の変化

東海北陸自動車道の開通及び4車線化により、交流型産業への来訪が増加

自然体験・交流型施設への来訪者数の推移



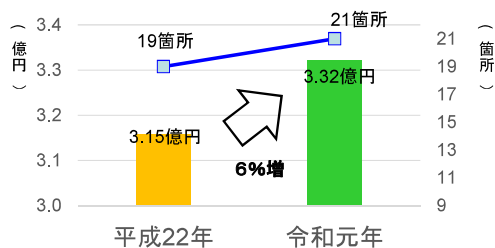
郡上旬菜館



賑わいを見せる朝市(旬菜館)



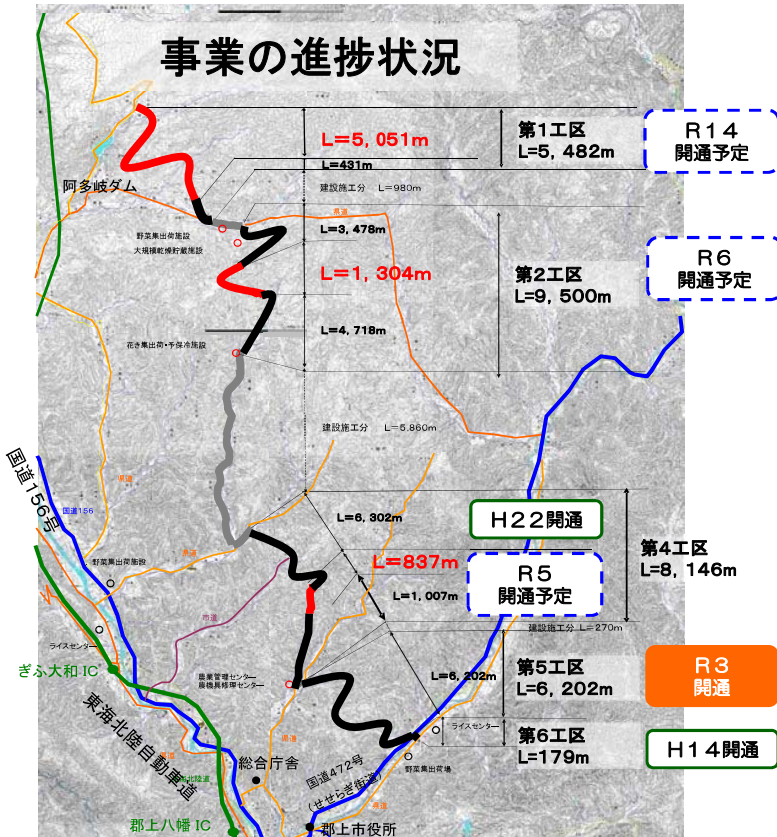
直売所数・販売実績の推移



● 郡上市内を広域的に連絡する  
本農道の需要が増加している

⑩

## 事業の進捗状況



- ～R2まで整備済み区間 (75.6%)
- ～R3以降整備区間
- 県道・市道施工分 (整備済)

⑪

## 関係者の意向・地域住民の取り組み

- 「郡上南部広域農道整備事業促進協議会」の開催による、継続的な事業実施に対する推進体制を確保
- 地域住民による草刈や側溝の清掃活動の実施



促進協議会



沿線住民による下草刈り

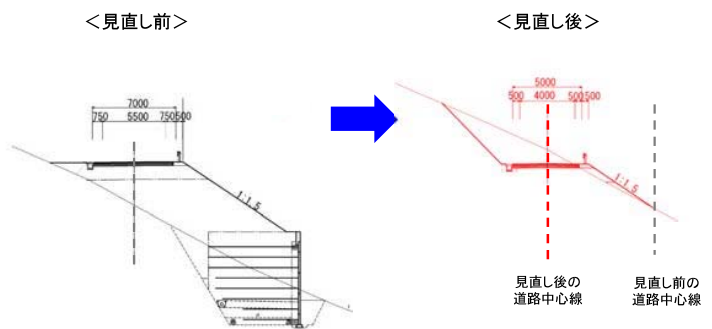
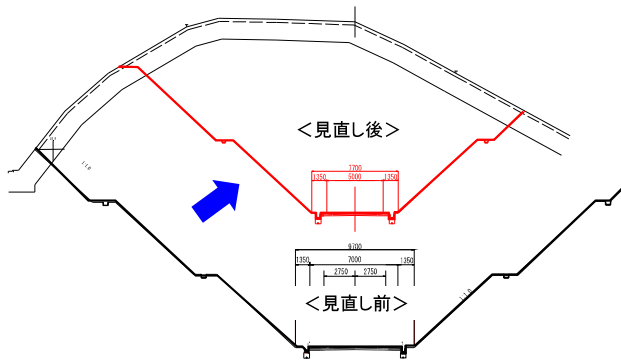
⑫

# コスト縮減 「1.5車線化」の採用等によるコストの縮減の実施。

整備水準	幅員7m	幅員5m(一部区間)
道路規格	第3種4級	第3種5級
設計速度	40km/hr	20km/hr
最小曲線半径	50m	15m
最急縦断勾配	7.5%	10%

① 縦断計画見直しに伴う扱い土量の減少

② 最小曲線半径の見直しによる構造物の削減



地区全体の縮減額： 1,024百万円

⑬

# 環境への配慮 <緑化基盤材>

根株の集積



チップ化



緑化基盤材として吹付



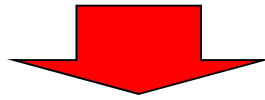
植生の状況



⑭

## 対応方針(案)

- ・ 受益農家を含む地域住民や郡上市からの広域農道の早期全線開通に寄せる熱意は高い。
- ・ 郡上地域の広域的な農業生産流通体系の確立や農業農村を含めた地域振興に資する路線であり、また災害時の迂回路としての利用も見込まれ、大きな効果が期待できる。



継続して事業を実施する。



**令和3年度  
岐阜県事業評価監視委員会  
費用対効果分析資料**

■事業名

県営広域農道整備事業 郡上南部地区

■事業内容

農道新設 L=29,509m 幅員W=7.0m (一部区間W=5.0m[9.9km])

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H27)	(基準年：R2)	
事業期間		H6～R14	H6～R14	
費用 (億円)	事業費	393.7	487.5	
	関連事業費	78.5	97.7	
	合計 (C)	472.2	585.2	
効果 (億円)	維持管理費節減効果	1.0	1.4	
	営農走行経費節減効果	383.1	498.0	
	一般交通等経費節減効果	132.7	160.9	
	木材生産確保・増進効果	6.2	2.0	
合計 (B)		523.0	662.3	
費用対効果分析結果 (B/C)		1.1	1.1	

※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したものの。

■費用対効果分析の分析方法

・土地改良事業の費用対効果分析マニュアル／農水省農村振興局/H19.3

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用の主な変化要因】

・評価基準年の更新により、現在価値化した事業費が増加した。【113億円】

【便益の主な変化要因】

・評価基準年の更新により、現在価値化した便益が増加した。【139億円】

【費用対効果分析結果の変化】

・費用対効果分析結果は、前回の1.1から変わっていない。費用便益比は1を上回っており、十分な事業効果が確保される見通しである。